

第一九回労働衛生史研究会プログラム

(日本産業衛生学会)

日時 昭和五九年(一九八四) 一月一日(土)

一四〇〇〇一七〇〇〇

会場 国立教育会館五〇六会議室(五F)

プログラム

一、一九六〇年代の京都の労働衛生事情

……藤田幸子(京都)

二、明治期における政府の労働衛生調査報告書について

……福留祥子(関西大・社会学部)

三、"大正五年工場監督年報"に見る工場法施行の状況

……福留祥子(関西大・社会学部)

四、後藤新平と労働者観

……橋本重遠(東京)

五、大正一三年における製糸労働者の寄生虫調査について

……清水勝嘉(防衛医大)

六、戦後労働衛生発展史(第一報)

——人絹工業における労働衛生問題と人脈——

……乾 修然(京都工場保健会)

日本医学学会新潟支部第8回総会

日時 昭和五九年一月八日

場所 日本歯科大学新潟歯学部講堂

演題

一、アンドレアス・ベザリウスと歯科医学

本間邦則(日歯大新潟)

二、足立寛訳「検尿要訣」について

会田 恵(柏崎市)

三、新潟医学教場フランス人医学教師

J. P. I. Vidal について

蒲原 宏(県立ガンセンター)

清水陽人(新潟病院)

四、新潟医学校オランダ人医学教師

W. H. van der Heydem とその末裔

蒲原 宏(県立ガンセンター)

(新潟病院)